

平成26年度 岡山県農林水産総合センター 生物科学研究所 機関評価評価票

1 運営方針及び重点分野	非常に優れている 1人	優れている 4人	妥当 1人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1. 地域農業に貢献できる応用面の研究にシフトしている点で評価できる。実用化間近な技術も現れており、今後に期待できる。 2. 岡山県が生科研を抱えることには大きな意味と十分な必要性がある。 3. H22改組以降、「県下の農業振興に資する問題解決型の研究」を意識する方針に変更し、重点化を行っていることは評価できる。 4. 研究毎に、実用化までの具体的ロードマップを示し、現在の位置を明らかにする必要がある。 5. 課題解決型の応用研究に積極的に取り組む方針は評価できるが、他の本県研究機関と重なっているものはないのか。特に、農業研究所の研究との違いを確認すべき。 6. 岡山の農産物の生産に関わる出口の見える研究にシフトしている。また、少人数でありながら、岡山の農業が直面している問題解決型の重点課題を設定している点も評価できる。					
2 組織体制及び人員配置並びに予算配分	非常に優れている 1人	優れている 4人	妥当 0人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1. 組織としては無駄のないスリムな組織である。 2. 貸借対照表、損益計算書を作成すべき。行政コストを算出すべきです。 3. 研究費の約8割が外部資金によって賄われていることは高く評価できる。 4. 研究員をサポートする事務職員の増員が望まれる。					
3 施設・設備等	非常に優れている 1人	優れている 1人	妥当 3人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1. もう少し市街地に近い場所にある方が研究所へのアクセスが容易になり、利便性が高まる。 2. 検査については、機器所有と外部委託のコスト比較を徹底すべき。 3. 活用されていない敷地が多く、これらは無駄な施設整備だ。 4. 研究に必要な先端機器をほぼ揃えている。また、研究スペースも十分ある。 5. 研究内容、研究成果から妥当と考える。					
4 研究成果	非常に優れている 3人	優れている 2人	妥当 1人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1. 大学や国等の研究機関と比べても世界トップクラスの成果が出ており、高く評価できる。 2. 概ね成果をあげているが、特許等取得後の活用について、各特許毎の見通しが不明である。 3. 立派な研究成果が上がっているが、すべての研究領域において実用化を見据えた研究成果があるかといえば、疑問。 4. 岡山県他の研究機関との棲み分けを明確にし、生科研独自の研究領域を絞っていくべき。 5. 特許取得や研究論文発表は積極的に行われている。					
5 技術相談・指導、普及業務、行政検査、依頼試験、情報提供等の実施状況	非常に優れている 0人	優れている 3人	妥当 2人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1. もともと基礎研究を中心に、その技術を応用展開することを意識しつつ業務を行なっている研究所であり、それなりの成果が有ることで技術相談・指導等については、十分と判断できる。 2. 技術相談、普及業務などは生科研が担う業務か見直すべき。 3. 今後とも、相談活動を続けてほしい。 4. 研究所は研究が主体であり、センターの別の部門が担当すべき					
6 人材育成	非常に優れている 0人	優れている 1人	妥当 5人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1. 育成した研究者がその後県内で活躍しているのかわからない。 2. 転出した研究者との協力体制・ネットワーク化ができればよい。 3. 生科研の運営目的そのものではない。 4. 非常勤職員の転出先は全国の大学や一流の教育・研究機関ばかりであり、十分に人材育成を行っている。					

7 他機関との連携	非常に優れている 3人	優れている 3人	妥当 0人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
-----------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

1. 大学や県外の研究機関との連携は非常に強く、論文作成の点で大変優れている。
2. 国内外の多くの研究機関と共同研究を行っていることは高く評価できる。

8 県民・地域への貢献	非常に優れている 1人	優れている 3人	妥当 2人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
-------------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

1. 基礎研究から応用研究への転換がようやく芽生えてきた時期であり、これからその成果が期待される。
2. 他の地方自治体にはこのような基礎を中心として、応用まで展開している農学に寄与できるバイオテクノロジー研究所の例は少なく、もっとアピールできる面が多い。
3. 岡山県の農業に直結するような研究が数多く含まれているが、これらの研究が県民・地域へ恩恵をもたらすことができるよう、今後は他の機関や行政と協力しながら制度設計を行うことが重要である。
4. 研究テーマ毎に実用化までのロードマップをより具体的に示す必要がある。
5. 県民への認知度は低い。積極的に地元報道機関と連携し取材をしてもらうなど、行動を起こすべき。
6. 岡山県立大学等との連携、共同研究なども検討してはどうか。
7. 県立大学との連携により研究科の教育を担い、また、高校生に対する研究の紹介や実験等を通じて県民への貢献も十分している。

9 前回指摘事項への対応	非常に優れている 0人	優れている 4人	妥当 2人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
--------------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

1. 応用研究のみに資源を配分するのではなく、基礎研究も続けるべき。
2. 県下の農業振興に資する研究について具体的に方針が示されるようになったことは評価できる。
3. 県民へのPRは努力しているが、広報（県内外に向けて）はもっと必要だ。
4. 生科研の研究領域が多面にわたっており、また 研究期間の終期がいつになるのか、その研究テーマの結果が県民・地域にどのように貢献するのか、などをさらに明確に説明すべき。課題解決型のスケジュールリングを明らかにしてほしい。
5. 概ね滞り無く対応している。

総合評価	非常に優れている 1人	優れている 4人	妥当 0人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 0人
------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

1. 最先端の基礎研究成果を挙げ、それを応用につなげようとしている事は評価できる。
2. 地方自治体がこの手の研究機関を保持する為には次のような点を意識しつつアクションをとる事が望まれる。
 - ①最先端基礎研究の県民へのPRと岡山県としての日本中へのPRを積極的に行なう。
 - ②岡山県は、日本の植物科学研究のメッカとなっている。世界にも著名な研究者も多く、そのような実態を岡山県が岡山大学等と一体となってアピールしていく事で県民の注目度も高まるはず。
 - ③全ての特許の維持を自治体ができることは難しい。その辺りのノウハウを蓄積し、実施許諾を与える企業に維持費を負担させる等の対応が望まれる。
 - ④企業や応用を考える機関とのコーディネートを行なう人材を雇用する事が必要だ。
3. 研究成果が地域や県民に実際に恩恵をもたらすのはまだ先になると思うが、中長期的な視点で評価する必要がある。
4. 今後のあり方への議論
 - ①他の研究所等に研究自体を外部委託することの可否、メリット、デメリット
 - ②研究の実用化までに必要な期間、実用化の難易度を研究テーマの選定、継続判断の基準化・制限化（上限設定）することの可否
 - ③基礎研究と応用研究のバランス
5. 生科研の研究領域は、岡山県の農林業の振興に大きく寄与しているが、研究期間の終期、研究テーマの結果が県民・地域にどのように貢献するのかなどを明確に説明し、研究期間毎に課題評価すべき。

こうした点を含め、改善すべき点が他にもあるのではないかと、また、見直しによりさらなる向上が図れるのではないかとといった観点から見直しが必要と評価した。
7. 問題解決型の課題にシフトしていて、全体的にいい方向に向かっている。
8. 10年、20年先を見据えた高いレベルの研究もぜひ行い、世界に発信してほしい。
9. 生科研の研究成果は世界に通用するものである。近視眼的な観点で“県民・県農業のため”との名のもとに研究レベルを落とすことなく、むしろ育てることによって、日本の農業研究の中心になるようにすべき。